

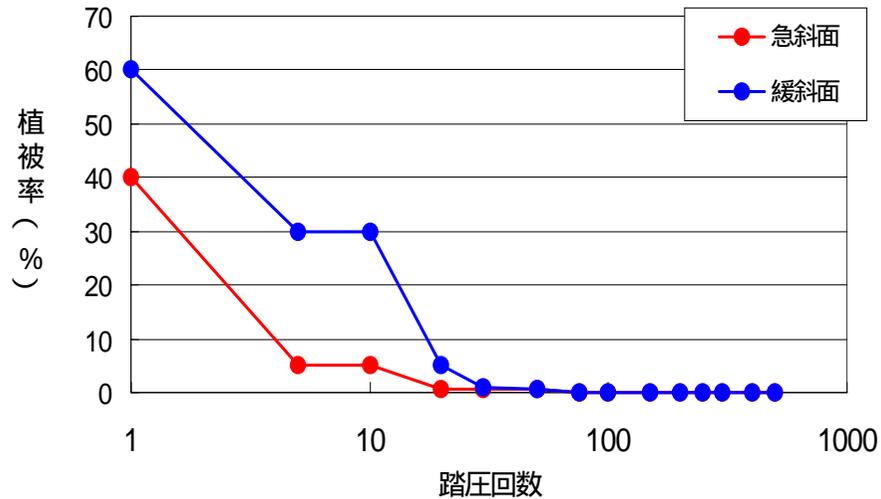
踏圧の蓄積と植被率に係る実験

実験方法

調査員 4 名による無踏圧地点における連続踏圧
 長さ 10m の区間を連続 500 往復。4 名の体重は荷物の重量により調整し、平均 75kg とした。1 回の踏圧に負荷される重量は、600kg。

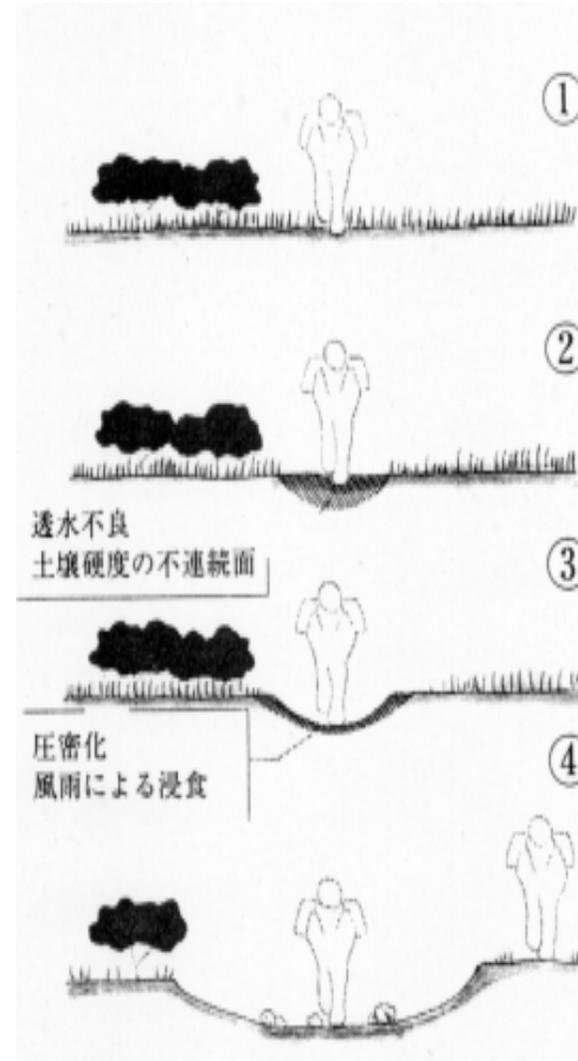
実験結果（踏圧と植被率の関係）

・踏圧回数の増加に伴い植被率は低下。特におよそ踏圧 10 回で植被率は急激に低下、75 回で完全に消失し、その後は土壌の表土流亡が発生。急斜面地は緩斜面地に比べて速やかに消失する。



(富士山大沢川付近の森林内における実験)

踏圧による林床荒廃のプロセス



健全な林床に人が歩くと、

早い段階で植被が消失。土壌表層に透水性不良の土葬が形成され、土壌硬度の不連続面が形成される。

表層は程なく流亡しえぐれが残る。さらに踏圧が蓄積すると、強度の圧密化や風雨による浸食のためさらに深くえぐれ、肩が削れて、浸食は水平方向にも及ぶ

えぐれの底部に石が堆積したりみずみちになることで歩行が困難になり、歩行者はえぐれの脇を歩くようになるため、浸食はさらに拡大する。
 出典)「踏みつけはここまで！ - 踏圧の蓄

積と土壌の悪化」関本(1998)